穂高支部社協だより

No.40
2023年２月

「安曇野市社協　福祉員」 のお願い

安曇野市社会福祉協議会では「お互いさまの地域づくり」を目指して、隣近所のつながりを作る**「福祉員」**の取り組みを広めています。
現在、人口減少、少子高齢化など社会情勢が大きく変化しており、その変化とともに地域の協力体制や関係が希薄になっています。住み慣れた地域で安心・安全に暮らすために、また災害時にも自然に助け合えるようにするためには、普段からの隣近所同士のつながりが大切になってきます。
「福祉員」とはその**隣近所同士のつながりを意識していただく**活動です。
「向こう三軒両隣」の自然な関係の中で、さりげない**「見守り」**、日頃からの**「声かけ」**、何か困りごとがあった時の相談窓口につなぐ**「つなぎ役」**を主に隣組長（班長）様にお願いしております。
福祉員さんだけでなく、地域住民の皆さまも一緒に、安心して暮らせる地域を目指していきましょう。

～福祉員の役割～

見守り

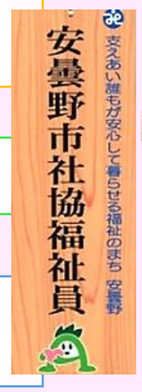
・「いつも散歩している人が最近見かけない」
・「ポストに新聞が溜まっている」

声かけ

・回覧や集金の時に「お元気ですか？」

つなぎ役

・見守りや声かけしているときに普段の様子と明らかに違うと感じたら、地区の役員さんなどに相談してみる。



福祉員には玄関先などへのプレートの掲示をお願いしています。

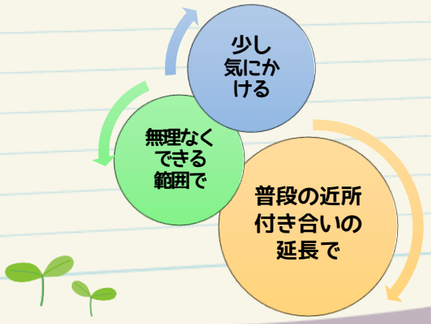
隣組長様に置かれましては、４月の交代とともに次の隣組長様にプレートの引継ぎをぜひよろしくお願いいたします。

福祉員を実践している地域ではこんな声が聞こえました！

「自然に住民同士であいさつができるようになったかも！」
「高齢者のゴミ出しをさりげなく手助けできるようになったなぁ…。」

福祉員のポイントは？

✅自然で緩やかなつながりをつくる



社協穂高支所より

生活支援コーディネータから地域の取り組みをご紹介します！

お寺体験ツアー 「子どもの居場所を増やそう会　2023」より

「子どもの居場所を増やそう会 2023」では、子どもが地域で安心して過ごすことができる居場所づくりを目指して活動しています。
そのきっかけとなるように、１月４日に宗徳寺で**「お寺体験ツアー」**を開催しました。
お寺が地域の居場所として知ってもらうように募集したところ、８組22名の子どもたちと保護者に参加していただきました。
当日は**和尚さんのお経を聞いたり、地獄絵図の説明を聞いたり、木魚をたたく体験をしたり**など…子どもたちにとってはとても新鮮な体験になったようです。
また、**カルタ、めんこ、たこ揚げ、羽根つきなどのお正月遊び**もしました。
中には初めて遊ぶものもあったようでしたが、大人に教えてもらうことで、たちまち自分の遊びにしていました。**「またお寺に行きたい！」**と言うお子さんも！
これをきっかけに、これからも地域での居場所づくりを目指して活動していきたいと思います。

☆穂高地域の協議体でも「地域での居場所づくり」をテーマにしており、「子どもの居場所を増やそう会」を応援しています！

社協会費・赤い羽根共同募金へのご協力ありがとうございました。

今年度も多くのご協力をいただき、深く感謝申しあげます。穂高地域の集計結果をご報告いたします。
（令和５年１月21日現在）

社協会費　7,345,468 円（前年度比　－354,949 円）

【内訳】

・普通・賛助会費（世帯・職域等）	6,367 件	6,294,468 円
・特別会費　（事業主）	203 件	1,051,000 円

赤い羽根共同募金　5,651,796 円（前年度比　－396,408 円）

【内訳】

・戸別募金（世帯）	5,528 件	4,868,818 円
・法人募金（事業主）	146 件	751,000 円
・その他の募金（募金箱・団体・職域等）		31,978 円

ご協力いただいた「社協会費」「共同募金」は地域福祉推進のために大切に使わせていただきます。
（共同募金については長野県共同募金会に納め、その後配分されます。）

この広報誌をはじめ支部社協の事業には、皆様よりご協力いただいた社協会費が使われています。

発行：穂高支部社会福祉協議会

（事務局）安曇野市社会福祉協議会穂高支所地域福祉係
安曇野市穂高 5808-1　Tel 82-2940　Fax 82-9621
E-mail　hotaka@azuminoshakyo.or.jp

R4 年度　地区社会福祉協議会の取り組み

穂高地域の各地区社協では今年度もコロナ禍に負けず、様々な活動に取り組みました。
徐々にコロナ禍以前の活動を再開しているところ、代わりの事業を実施しているところ、またはこれまでの活動を一から見直し、新たな活動を始めたところなど、それぞれ工夫して取り組んでいます。
今号ではそんな地区社協の取り組みをほんの一部ですがご紹介します！

地区社会福祉協議会（地区社協）とは？

地区社会福祉協議会とは、地域福祉を推進する住民による自主組織です。「顔の見える関係づくり」「お互いの支えあい活動」「誰もが参加できる居場所づくり」を、より身近な地域で実践しています。
皆さまにご協力いただいた社協会費が運営の財源となっております。

立足地区社協

「まずは住民でできることからやってみよう」という気持ちで！

立足地域支え合いの会　発足！

立足地区社協では今年度新たに「立足地域支え合いの会」を 10 月に立ち上げました。
これは既存のサービスでは手が届かない困りごとを、住民同士の支え合いで解決するために発足したもので、なるべく多くの人が支え合うことができることを目指しています。

住民の困りごとが明らかに

まず、住民の困りごとを把握するために、「ご近所支えあいアンケート」を 6 月に実施し、日常生活で不安に思っていること、災害時に助けてくれる人がいるかなどを住民の皆さんにお聞きしました。
すると、アンケートでは雪かきやゴミ出しなどちょっとした困りごとのようでも、**一人暮らしや高齢者世帯の増加という背景から、不安に思っている方が多くいることが浮き彫りになりました。**
また、地域特有の課題として、耕作放棄地や空き家が猿の住みかとなってしまい、出くわした猿に襲われてケガをしてしまうなど、住民に被害が出ていることが判明し、「何とかできないか」という声があがりました。

自分たちの地域は自分たちで！

そこでまずはその声に応えるために、動物の住みかにならないように耕作放棄地の整備に取り組むことになりました。
地元の有志、ボランティア団体、「立足地域支え合いの会」の支援会員の数十人で、木の伐採や草刈りなどを 8 月～10 月に行いました。
少人数では難しい広大な土地の手入れも、多くの方が参加したことによって、綺麗に整備することができました。
他にも、道にはみ出た枝はらいなど、個人を対象とした支援だけでなく「地域の困りごと」にも力を入れています。

豊里地区社協

区民アンケートから見えてきたもの

６月に区として、住民に寄り添った新しい区のあり方を考えるために、「区民意向アンケート」を実施しました。
その結果、役員や公民館事業の負担感、あるいは従来の区活動に距離を置く「地域離れ」の実態と、「緩い結びつき」を求める声が多いことが明らかとなり、“地域”に対する価値観が大きく変化していることを確認しました。
その声を受け、従来の「親睦行事中心の活動」から大きく見直し、防災対策を軸にした新しい地域のつながりを図る改革をスタートします。
価値観も行動様式も変わり、誰しもが“忙しい”時代にもなっている中で、今後も無理なく地域を支え合える新しい形を求める続ける必要があると考えています。

新たな地域のつながり

今年度、地区社協は月例「ボッチャの日」や地域内の園での「区内ブルーベリー摘み取り会」などを開催しました。
また防災部と協力して「避難要支援者への災害時の声かけ、安否確認訓練」をはじめて実施しました。
あわせて常会内の支えあい情報の体制強化のために、各常会の住民情報に詳しい方の力を活用する「災害時支えあい情報サポーター制度」を新設し、これにより災害時に人的情報が必要となる1年任期の常会長をサポートしていきます。
社協もこれまで実施してきた事業の見直しにより、本当に必要な活動を、負担の少ない手間のかからない運営で実施することを目指しています。

「災害時対応はしっかり、普段は緩い結びつきで」を目指していきます！

矢原地区社協

地域全体で持つ防災意識！

矢原地区社協では、地域の防災意識の向上に力を入れています。
10 月に地区社協役員で**地域における防災の視察研修**として、2021 年に土石流などの被害があった茅野市に視察に行き、その時の様子、地域住民の動きなどを学びました。
また、区と連携し、**中学生と地域が一体となった防災訓練**や、実際に災害が起きた時に的確に被害を把握し、救助対策を立てるため、安否確認を行う**「無事ですフラッグ」**の確認訓練を行いました。

年々多発する災害

近年毎年のように大雨や台風などの災害が起こっております。昨年も穂高地域の中で一部、大雨で浸水してしまった家もありました。
少子高齢化が進み、一人暮らし、高齢者世帯も増える中、いざ災害が起こった時に、**一人で避難することが困難な人が多くなっていきます。**

自助・公助・ご近助！

そのような時、隣近所同士で助け合うことが必要になってきます。しかし、いざという時に地域で一体となって助け合うことはなかなか難しいかもしれません。
被災時にスムーズに助け合うことができるように、普段から**地域全体で防災意識を育み、隣近所で顔の見える関係づくりを作ること**が大切ですね。